

## 統計

平成29年当院における時間外受診者状況及び  
救急車等搬入状況

Statistics of outpatients in the emergency room of Sunagawa city medical center

明円 彬 Akira Myoen 平賀 裕介 Yusuke Hiraga 上村 光 Hikari Uemura 長谷部 莉子 Riko Hasebe 中村 優 Yu Nakamura  
川端 祥子 Sachiko Kawabata 市川 史誠 Fuminari Ichikawa 倉島 久徳 Hisanori Kurashima 山田 基 Motoi Yamada

## 要 旨

当院の平成29年時間外受診者状況と救急車等患者搬入状況について集計を行ったので報告する。

Key words : Statistics, Outpatients, Emergency

## はじめに

当院は、昭和15年の開院以来、幾多の困難を乗り越え中空知地域の基幹病院として地域センター病院、災害拠点病院、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センターなど数多くの指定を受けるに至っている。

しかし、昭和43年に建設された本館をはじめ施設の老朽化と狭隘等により新病院建設に着手し、平成22年10月に新本館を開院、翌年10月には南館を開院させ、地域住民が安心して受診できる施設整備と診療体制を構築してきた。

また、当地域に不足していた救急医療体制の整備を図り、平成23年12月には地域救命救急センターの指定を受け、平成25年12月には更なる重症患者の救命率向上を図ることを目的にドクターカーの運行を開始したところである。

## 調査方法

期間：平成29年1月1日から平成29年12月31日までの1年間

対象：時間外受診者、救急車等による搬入者及び搬出者

方法：救急患者一覧、当直日誌、傷病者調書（救急車専用）より集計

※時間外とは、平日の診療時間外（午後5時から翌日午前8時30分）と休日（土曜、日曜、祝祭

日の午前8時30分から翌日午前8時30分）のことである。

## 調査内容

- 1) 平成29年 来院方法／転帰（時間外受診者）(表1)
- 2) 平成29年 受付診療科／転帰（時間外受診者）(表2)
- 3) 平成29年 年齢層／転帰（時間外受診者）(表3)
- 4) 平成29年 疾病分類／転帰（時間外受診者）(表4)
- 5) 平成29年 住所／転帰（時間外受診者）(表5)
- 6) 平成29年 ドクターヘリによる要請（搬入）状況(表6)
- 7) 平成29年 ドクターカーによる要請（搬入）状況(表7)

## 考 察

表1より、診療時間外であろうと救急車はもちろんのこと、ドクターヘリ・他院からの転院搬送の受け入れを安定して行っていることがわかる。また独歩の患者さんも年間7000人以上来院しており、まさに一次から三次・24時間365日医療を提供している。一方、独歩来院では9割弱、救急車来院でも5割は帰宅できている。このことから、患者さんに救急外来の役割を理解してもらうことや他院救急外来との連携の必要性も感じる。

表2より、救急科だけでなく、他18診療科で受付実績があることから、入院・帰宅にかかわらず必要に応じて容態に合わせた専門的な判断・治療が行なわれていたことがわかる。

平成29年当院における時間外受診者状況及び救急車等搬入状況

**表3**より、未成年の患者さんの場合は帰宅割合が高く、60歳から高齢になるにつれて帰宅割合が低くなっていく傾向がある。

**表4**より、症例数の多い疾患は、当然入院も帰宅の症例も共に多くなるが、例外もあることがわかる。

**表5**より、二次医療圏が7割（うち砂川市は3割強）、それ以外の地域が3割占めている。二次医療圏を超えた地域からも当院が地域救命救急センター病院として求められていることがわかる。道外など遠い地域からの受診者としては、「里帰り出産」「旅行者」が主なところである。

**表6**より、外傷の症例が大半を占めている。また帰宅症例が2件ある。

**表7**より、ドクターカーへの要請は21件（搬入15件、他院搬送指示1件、要請キャンセル3件、不搬送2件）であった。搬入症例のうち入院・死亡が13件占めていることから、重症の可能性のある患者さんに対して出動していることがわかる。

## おわりに

「地域救命救急センター病院」として中空知医療圏を中心に数多くの時間外受診者を受け入れてきた。当院の救急外来は地域に対して重要な役割を担っているのではなく、必要不可欠なものになっていることがこの集計で改めてわかった。地域に根ざし、地域に愛され、貢献する病院を実現するためにも、今後も統計の集計を続け、分析し、報告していきたい。

表1 来院方法／転帰 (時間外受診者)

	入院	転院	死亡	帰宅	総計	帰宅割合
ヘリコプター	5			2	7	28.6%
救急車	700	6	36	838	1580	53.0%
救急車(転院)	152	3	1	17	173	9.8%
独歩	957	3	2	6527	7489	87.2%
病院車・福祉タクシー	7			1	8	12.5%
総計	1821	12	39	7385	9257	79.8%

表2 受付診療科／転帰 (時間外受診者)

	入院	転院	死亡	帰宅	総計
緩和ケア外科	3				3
眼科				3	4
救急科	1469	12	38	7064	8582
形成外科	1			43	44
産婦人科	277			88	365
耳鼻咽喉科	3			6	9
循環器内科	13			6	19
小児科	10			58	68
消化器外科	7			51	58
心臓血管外科	2				2
神経内科	5			2	7
整形外科	2			14	16
精神科	10			3	13
内科	10			34	44
乳腺外科				1	1
脳神経外科	5				5
泌尿器科	4		1	5	10
皮膚科				4	4
放射線治療科				3	3
総計	1821	12	39	7385	9257

表3 年齢層／転帰 (時間外受診者)

	入院	転院	死亡	帰宅	総計	帰宅割合
0~9	107			1577	1684	93.6%
10~19	30			597	627	95.2%
20~29	168			687	855	80.4%
30~39	187			686	873	78.6%
40~49	88		1	518	607	85.3%
50~59	102	1	2	479	584	82.0%
60~69	260	4	6	873	1143	76.4%
70~79	332	1	11	923	1267	72.8%
80歳以上	547	6	19	1045	1617	64.6%
総計	1821	12	39	7385	9257	79.8%

平成29年当院における時間外受診者状況及び救急車等搬入状況

表4 疾病分類 / 転帰 (時間外受診者) ※ (1~4) の数字は症例数が多い順、転院・死亡は除く

	入院	転院	死亡	帰宅	総計
1-10呼吸器系疾患	(4)242	1	2	(1)1735	1980
1-1感染症・寄生虫症	68	1		(2)852	921
1-9循環器系疾患	(1)381	1	22	266	670
1-11消化器系疾患	(3)247	7	1	(4)412	667
1-18症状・徴候・異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	40		3	(3)592	635
1-15妊娠・分娩産褥疾患	(2)317			159	476
1-14尿路性器系疾患	87			303	390
2-1頭蓋損傷	29		1	340	370
1-12皮膚・皮下組織疾患	12			293	305
1-13筋骨格系・結合組織疾患	18			280	298
1-8耳・乳様突起疾患	14			275	289
1-6神経系疾患	45		1	205	251
2-7手首及び手の損傷	4			236	240
1-2新生物	66	2	3	123	194
1-5精神及び行動障害	25			147	172
2-10足首及び足の損傷	7			139	146
1-4内分泌・栄養代謝疾患	46			78	124
2-9膝及び下腿の損傷	16			98	114
1-7眼疾患	1			110	111
2-13自然開口部からの異物侵入	2		3	91	96
2-3胸部(救)損傷	13			78	91
2-4腹部・下背部・腰椎及び骨盤部の損傷	23			67	90
2-6肘及び前腕の損傷	9			75	84
2-2頸部損傷	6		1	67	74
2-5肩及び上腕の損傷	5			68	73
2-8股関節部及び大腿の損傷	41			32	73
2-18外因のその他・詳細不明の作用	12			34	46
2-20外科・内科的ケアの合併症及び他に分類されないもの	10			36	46
2-17薬用を主としない物質の毒作用	1			44	45
2-14熱傷・腐食	3			40	43
1-3血液・造血器疾患ならびに免疫機構障害	12			26	38
2-12部位不明の体幹・四肢の損傷・部位不明の損傷	2			33	35
2-11多部位の損傷	8		1	13	22
1-21健康状態に影響をおよぼす要因	2			15	17
2-16薬物・薬剤及び生物学的製剤による中毒	4			5	9
2-19外傷の早期合併症				8	8
2-21損傷・中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	1			4	5
1-17先天奇形・変形・染色体異常	1			3	4
2-15凍傷			1	2	3
1-16周産期に発生した病態	1			1	2
総計	1821	12	39	7385	9257

表5 住所／転帰 (時間外受診者)

	入院	転院	死亡	帰宅	総計
砂川市	472	2	17	2662	3153
滝川市	295	1	2	981	1279
空知郡奈井江町	140	1	3	623	767
空知郡上砂川町	122	1	2	535	660
美唄市	175	4	3	399	581
樺戸郡新十津川町	100		4	464	568
歌志内市	90	1	5	451	547
赤平市	112			273	385
芦別市	87	1	1	268	357
樺戸郡浦臼町	31			177	208
札幌市	30			126	156
(道外)	25			68	93
深川市	25			51	76
雨竜郡雨竜町	7			49	56
岩見沢市	18			35	53
樺戸郡月形町	9			27	36
旭川市	5		1	23	29
三笠市	11		1	12	24
雨竜郡妹背牛町	9			12	21
雨竜郡沼田町	10			7	17
その他(道内)	48	1		142	191
総計	1821	12	39	7385	9257

表6 ドクターヘリによる要請(搬入)状況

区分	件数	出動ヘリ	要請者	要請分類	転帰
1月	2	旭川赤十字病院	利尻消防	交通外傷	入院
		旭川赤十字病院	芦別消防	急病	入院
2月	0				
3月	1	旭川赤十字病院	沼田消防	全身熱傷	入院
4月	2	旭川赤十字病院	深川消防	外傷	入院
		旭川赤十字病院	芦別消防	転落	入院
5月	0				
6月	1	旭川赤十字病院	芦別消防	交通外傷	帰宅
7月	4	旭川赤十字病院	芦別消防	転落	入院
		旭川赤十字病院	増毛消防	交通外傷	入院
		旭川赤十字病院	芦別消防	転落	入院
		旭川赤十字病院	増毛消防	転落	入院
8月	4	旭川赤十字病院	芦別消防	急病	入院
		旭川赤十字病院	芦別消防	交通外傷	入院
		旭川赤十字病院	芦別消防	交通外傷	帰宅
		旭川赤十字病院	増毛消防	外傷	入院
9月	1	旭川赤十字病院	芦別消防	転落	入院
10月	2	旭川赤十字病院	芦別消防	交通外傷	入院
		旭川赤十字病院	深川消防	交通外傷	入院
12月	1	旭川赤十字病院	芦別消防	急病	入院
合計	18				

平成29年当院における時間外受診者状況及び救急車等搬入状況

表7 ドクターカーによ要請（搬入）状況

区分	件数	要請者	要請分類	転帰
1月	1	砂川消防	C P A	死亡
2月	1	砂川消防	転倒	入院
3月	1	滝川消防	交通外傷	入院
4月	2	砂川消防	C P A	死亡
		砂川消防	C P A	死亡
5月	1	砂川消防	転倒	入院
6月	4	砂川消防	意識喪失	入院
		砂川消防	C P A	死亡
		砂川消防	-	不搬送
		砂川消防	-	不搬送
7月	2	奈井江浦白消防	交通外傷	帰宅
		砂川消防	-	要請キャンセル
8月	1	砂川消防	-	要請キャンセル
9月	4	砂川消防	意識喪失	入院
		砂川消防	意識喪失	帰宅
		砂川消防	意識喪失	要請キャンセル
		滝川消防	交通外傷	入院
10月	1	奈井江浦白消防	意識喪失	死亡
11月	2	砂川消防	意識喪失	死亡
		砂川消防	交通外傷	死亡
12月	1	芦別消防	交通外傷	他院搬送支指示
合計	21			

## 統計

## 過去5年間の砂川市立病院事業収支状況

Report of economic status in the Sunagawa City Medical Center for last 5 years

堀下 直樹 明山 優夏  
Naoki Horishita Yuka Akeyama

## 要 旨

当院における過去5年間の病院事業収支を報告する。

## 1. 病院経営状況

## (1) 収益的収支 (3条)

(単位：円)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
収 入	病院事業収益	11,719,645,597	11,655,481,592	12,839,870,437	12,528,158,918	13,496,583,418
	医業収益	10,483,491,677	10,300,094,749	11,012,954,491	11,077,233,857	11,973,932,261
	医業外収益	1,128,262,206	1,129,241,831	1,223,713,484	1,158,332,038	1,175,506,266
	看護専門学校収益	93,128,367	90,294,225	93,115,812	96,921,446	95,517,273
	院内保育事業収益	10,830,600	15,804,300	19,798,300	16,618,334	17,593,700
	特別利益	3,932,747	120,046,487	490,288,350	179,053,243	234,033,918
支 出	病院事業費用	12,414,510,833	14,369,905,080	13,149,174,056	13,217,172,935	13,695,839,587
	医業費用	12,090,650,746	12,522,941,939	12,863,580,920	12,952,907,493	13,437,684,152
	医業外費用	148,832,979	146,224,443	124,521,985	107,630,826	98,552,597
	看護専門学校費用	101,658,242	109,788,235	126,289,634	109,962,962	113,198,078
	院内保育事業費用	17,760,324	23,692,335	29,461,466	30,921,061	30,038,682
	特別損失	55,608,542	1,567,258,128	5,320,051	15,750,593	16,366,078
純利益	△ 694,865,236	△ 2,714,423,488	△ 309,303,619	△ 689,014,017	△ 199,256,169	
経常利益	△ 643,189,441	△ 1,267,211,847	△ 794,271,918	△ 852,316,667	△ 416,924,009	

過去5年間の砂川市立病院事業収支状況

(2) 資本的収支 (4条)

(単位：円)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
収 入	資本的収入	939,033,600	552,523,049	680,453,003	760,284,000	1,173,164,500
	企業債	557,100,000	190,500,000	155,600,000	305,900,000	686,100,000
	投資償還金	9,830,600	8,215,500	10,341,000	10,772,000	9,747,500
	補助金	105,202,000	16,617,547	0	496,000	0
	出資金	264,571,000	323,457,000	479,217,000	406,361,000	451,402,000
	寄附金	2,330,000	13,733,002	35,295,003	36,755,000	25,915,000
支 出	資本的支出	1,485,930,149	1,138,708,568	1,193,235,190	1,132,763,444	1,615,874,621
	建設改良費	680,282,559	272,004,307	186,433,758	331,920,992	720,814,128
	企業債償還金	793,848,590	857,343,261	997,279,432	769,882,452	861,010,493
	投資	11,799,000	9,361,000	9,522,000	30,960,000	34,050,000
収支差		△ 546,896,549	△ 586,185,519	△ 512,782,187	△ 372,479,444	△ 442,710,121
補 填 財 源	当年度調整額	904,971	545,975	381,919	680,504	1,447,654
	過年度留保資金	545,991,578	585,639,544	512,400,268	371,798,940	441,262,467
	繰越利益剰余金処分額	-	-	-	-	-

(3) 収益的収支比率

(単位：%)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
総収支比率	94.4	81.1	97.6	94.8	98.5
経常収支比率	94.8	90.1	94.0	93.5	97.0
医業収支比率	86.7	82.2	85.6	85.5	89.1

(4) 人件費比率 (医業収益対職員給与費)

(単位：%/円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人件費比率	58.0	61.5	58.6	61.7	60.4
給与費	6,081,682,893	6,330,166,344	6,453,899,667	6,829,116,477	7,227,680,307

(5) 企業債の状況

(単位：円)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
前年度末残高	16,263,031,309	16,026,282,719	15,359,439,458	14,517,760,026	14,053,777,574
当年度借入額	557,100,000	190,500,000	155,600,000	305,900,000	686,100,000
当年度償還額	793,848,590	857,343,261	997,279,432	769,882,452	861,010,493
当年度残高	16,026,282,719	15,359,439,458	14,517,760,026	14,053,777,574	13,878,867,081



2. 業務量

(1) 患者数

(単位：人/日)

	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		
	患者数	一日平均	患者数	一日平均	患者数	一日平均	患者数	一日平均	患者数	一日平均	
入院	内科	34,582	94.7	29,328	80.4	28,890	78.9	26,693	73.1	29,187	80.0
	精神科	21,549	59.0	20,870	57.2	20,605	56.3	20,657	56.6	22,367	61.3
	神経内科	0	0.0	3,973	10.9	5,546	15.2	5,923	16.2	7,915	21.7
	循環器内科	11,583	31.7	13,028	35.7	15,757	43.1	14,064	38.5	16,785	46.0
	小児科	1,896	5.2	2,084	5.7	2,063	5.6	2,497	6.8	2,813	7.7
	外科	8,991	24.6	8,483	23.2	7,019	19.2	-	-	-	-
	消化器外科	-	-	-	-	-	-	8,503	23.3	8,117	22.2
	乳腺外科	-	-	-	-	-	-	399	1.1	901	2.5
	緩和ケア外科	-	-	-	-	-	-	1,073	2.9	1,086	3.0
	整形外科	16,819	46.1	15,693	43.0	17,158	46.9	17,342	47.5	20,336	55.7
	形成外科	2,380	6.5	2,030	5.6	2,132	5.8	2,553	7.0	3,254	8.9
	脳神経外科	11,554	31.7	10,217	28.0	10,759	29.4	11,250	30.8	8,474	23.2
	呼吸器外科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	心臓血管外科	4,650	12.7	3,611	9.9	4,194	11.5	2,867	7.9	3,305	9.0
	皮膚科	1,015	2.8	1,012	2.8	953	2.6	885	2.4	967	2.6
	泌尿器科	6,821	18.7	7,781	21.3	7,678	21.0	6,951	19.0	7,321	20.1
	産婦人科	9,345	25.6	8,660	23.7	7,846	21.4	7,653	21.0	8,624	23.6
	眼科	830	2.3	1,089	3.0	822	2.2	1,264	3.5	1,116	3.1
	耳鼻咽喉科	2,825	7.7	3,252	8.9	2,467	6.7	2,719	7.4	2,159	5.9
	放射線診断科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	放射線治療科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	麻酔科	94	0.3	2	0.0	0	0.0	30	0.1	0	0.0
	救急科	3,899	10.7	4,728	13.0	5,274	14.4	4,727	13.0	4,608	12.6
歯科	-	-	-	-	-	-	-	-	148	0.4	
合計	138,833	380.4	135,841	372.2	139,163	380.2	138,050	378.2	149,483	409.5	
診療実日数		365		365		366		365		365	
外来	内科	44,508	181.7	42,289	171.9	41,780	171.2	39,804	163.8	38,477	157.7
	精神科	23,501	95.9	23,653	96.2	22,241	91.2	20,543	84.5	20,806	85.3
	神経内科	2,200	9.0	4,065	16.5	5,174	21.2	5,207	21.4	5,698	23.3
	循環器内科	26,867	109.7	26,219	106.6	27,807	114.0	27,385	112.7	28,002	114.8
	小児科	13,348	54.5	13,124	53.3	13,562	55.6	14,286	58.8	14,776	60.5
	外科	7,694	31.4	7,990	32.5	7,633	31.3	-	-	-	-
	消化器外科	-	-	-	-	-	-	6,827	28.1	6,652	27.3
	乳腺外科	-	-	-	-	-	-	1,413	5.8	2,317	9.5
	緩和ケア外科	-	-	-	-	-	-	60	0.2	102	0.4
	整形外科	40,008	163.3	39,656	161.2	37,261	152.7	36,408	149.8	36,322	148.8
	形成外科	6,129	25.0	5,791	23.5	5,093	20.9	5,985	24.6	5,802	23.8
	脳神経外科	4,443	18.1	4,518	18.4	4,305	17.6	4,427	18.2	4,265	17.5
	呼吸器外科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	212	0.9
	心臓血管外科	3,129	12.8	2,945	12.0	2,743	11.2	2,682	11.0	2,265	9.3
	皮膚科	22,274	90.9	22,799	92.7	22,277	91.3	22,054	90.8	21,759	89.2
	泌尿器科	25,256	103.1	25,732	104.6	25,305	103.7	24,770	101.9	23,415	96.0
	産婦人科	14,179	57.9	13,057	53.1	12,536	51.4	12,363	50.9	12,985	53.2
	眼科	11,116	45.4	12,081	49.1	12,472	51.1	11,126	45.8	11,546	47.3
	耳鼻咽喉科	9,106	37.2	8,256	33.6	7,834	32.1	7,395	30.4	7,423	30.4
	放射線診断科	479	2.0	343	1.4	335	1.4	327	1.3	335	1.4
	放射線治療科	1,566	6.4	1,720	7.0	1,815	7.4	1,532	6.3	1,875	7.7
	麻酔科	453	1.8	421	1.7	390	1.6	356	1.5	289	1.2
	救急科	8,427	34.4	7,454	30.3	7,572	31.0	7,577	31.2	7,667	31.4
歯科	278	1.1	913	3.7	1,811	7.4	2,145	8.8	4,675	19.1	
合計	264,961	1,081.5	263,026	1,069.2	259,946	1,065.4	254,672	1,048.0	257,665	1,056.0	
診療実日数		245		246		244		243		244	

※平成28年1月1日、外科を消化器外科及び乳腺外科並びに緩和ケア外科へ改めたが、患者数は外科で計上している（平成27年度）。

過去5年間の砂川市立病院事業収支状況

(2) 入院・外来患者数と1日平均単価

(単位：人/日/円)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入院	患者延数	138,833	135,841	139,163	138,050	149,483
	診療実日数	365	365	366	365	365
	一日平均患者数	380.4	372.2	380.2	378.2	409.5
	一日平均単価	53,749	53,640	55,970	56,271	56,639
外来	患者延数	264,961	263,026	259,946	254,672	257,665
	診療実日数	245	246	244	243	244
	一日平均患者数	1,081.5	1,069.2	1,065.4	1,048.0	1,056.0
	一日平均単価	10,598	10,645	11,538	12,074	12,625
入院収益		7,462,149,105	7,286,500,817	7,788,908,792	7,768,188,329	8,466,521,964
外来収益		2,808,020,490	2,799,880,271	2,999,277,611	3,075,004,187	3,253,147,254

(3) 病床利用状況

(単位：床/%/人)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一般	病床数	408	408	408	408	408
	病床利用率	78.1	76.7	78.8	78.6	85.1
	年延入院患者数	116,362	114,288	117,689	117,007	126,742
	年延病床数	148,920	148,920	149,328	148,920	148,920
精神	病床数	88	80	80	80	80
	病床利用率	67.1	71.3	70.4	70.6	76.5
	年延入院患者数	21,549	20,825	20,601	20,623	22,350
	年延病床数	32,120	29,200	29,280	29,200	29,200
結核	病床数	6	6	6	6	6
	病床利用率	42.1	33.2	39.8	19.2	17.9
	年延入院患者数	922	728	873	420	391
	年延病床数	2,190	2,190	2,196	2,190	2,190
感染症	病床数	4	4	4	4	4
	病床利用率	0	0	0	0	0
	年延入院患者数	0	0	0	0	0
	年延病床数	1,460	1,460	1,464	1,460	1,460
合計	病床数	506	498	498	498	498
	病床利用率	75.2	74.7	76.4	75.9	82.2
	年延入院患者数	138,833	135,841	139,163	138,050	149,483
	年延病床数	184,690	181,770	182,268	181,770	181,770

※26年度精神病床数 4/1～8床減

## 3. 職員の状況

## (1) 部門別職員数

(単位：人)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
医 師	職 員	70	68	70	71	75
	そ の 他	19	17	18	20	20
看 護 師	職 員	401	407	404	425	445
	そ の 他	43	40	44	41	37
医 療 技 術 員	職 員	99	106	112	125	131
	そ の 他	6	8	12	11	13
事 務 員	職 員	37	38	42	43	46
	そ の 他	30	36	36	37	36
労 務 員	職 員	33	32	32	31	32
	そ の 他	77	74	74	80	76
計	職 員	640	651	660	695	729
	そ の 他	175	175	184	189	182
看 護 専 門 校 学 校	職 員	10	10	10	10	11
	そ の 他	2	2	2	2	1
合 計	職 員	650	661	670	705	740
	そ の 他	177	177	186	191	183
総 合 計		827	838	856	896	923

## 2017年度 学術・学会活動記録

Academic publication 2017

氏名	部署名	会場	期間	研修名	研究発表演題名	共同研究者名
1 高橋 直規	内科	北海道大学 臨床講義棟	H29.7.22	日本内科学会 第 280回北海道地方会	治療開始早期に死に至った横行 結腸癌を背景としたトルソー症 候群の1例	椎名真一、天間 友理香、菊池謙 成、岩木宏之
2 渡部 直己	内科	パシフィコ横浜	H29.10.14-15	第58回日本肺癌学会 総会	当院でのニボルマブ(NIVO)使 用経験 初回登用後にG2間質 性肺炎発症後に著明な腫瘍退 縮を認めた1例	佐藤峰嘉、椎谷 真一
3 植村 和平	内科	砂 川 パークホテル	H29.11.16	平成29年度空知医 師会集談会	当院で経験したEdwardsiella tardaについて	伊藤祥太郎、渡 部直己、斎藤志 穂
4 伊藤祥太郎	内科	砂 川 パークホテル	H29.11.16	平成29年度空知医 師会集談会	不明熱として紹介された1例	
5 姫野 大作	精神科	名古屋 国際会議場	H29.6.14-16	第32回日本老年精神 医学会	認知症患者における睡眠障害と 薬物療法の実態	内海久美子、江 本雄泰、藤本 純、安村修一、 常本倫
6 岡田 健太	神経内科	北海道大学 臨床大講堂	H30.2.17	日本内科学会北海道 支部第282回北海道 地方会	MPO-ANCA陽性頸椎肥厚性 硬膜炎に免疫治療が有効であつ た1例	松浦洋介、池田 和奈、山内理香
7 池田 知奈	神経内科	パシフィコ横浜	H29.9.8-9	第47回日本臨床神 経生理学会学術大 会	DWHを活用した「重症度、医療・ 看護必要度」の評価制度向上へ の取組み	倉内麗徳1、松 浦洋介1、山内 理香1、今井富 裕
8 正木 芳宏	循環器 内科	秋 田 キャッスルホテル	H29.10.12-14	第21回日本心不全 学会学術集談会	高齢化地域における心不全チー ム医療と心臓リハビリテーションの 取組み	
9 玉置 陽生	循環器 内科	砂 川 パークホテル	H29.11.16-29	平成29年度空知医 師会集談会	当院における冠危険因子と認知 症との関連の検討	中尾元基、松谷 健一、正木芳 宏、清水紀宏、 平林高之、内海 久美子
10 植木 美渚	循環器 内科	旭 川 グランドホテル	H29.11.18	日本内科学会第281 回北海道地方会	TAVI後にIEを発症した1例	正木芳宏
11 原田 二郎	小児科	京王プラザ ホテル	H30.3.8-9	第54回日本腹部救急 医学会総会	食道裂孔ヘルニアにより汎発性 腹膜炎をのがれ救命できた横行 結腸穿孔の一例	
12 武田 賢大	小児科	旭川市大雪 クリスタルホール	H29.6.4	日本小児科北海道地 方会第299回例会	PRRT2遺伝子変異を認めた発 作性運動誘発性ジスキネジアの 一家系	○武田賢大、西 田剛士、近藤謙 次
13 菊池 成佳	小児科	旭川市大雪 クリスタルホール	H29.6.4	日本小児科学会北海 道地方会第299回例 会	PRRT2遺伝子変異を認めた発 作性運動誘発性ジスキネジアの 一家系	○武田賢大、西 田剛士、菊池成 佳
14 近藤 謙次	小児科	旭川市大雪 クリスタルホール	H29.6.4	日本小児科学会北海 道地方会第299回例 会	PRRT2遺伝子変異を認めた発 作性運動誘発性ジスキネジアの 一家系	
15 田口 宏一	消化器 外科	パシフィコ横浜	H29.6.22-24	第23回日本緩和医療 学会	抗がん剤治療中患者への Dignity therapyが心理的援助 につながった一事例 他3題	松井佳奈江、高 野陽平、及川佑 介、森井佳奈
16 本間 友樹	消化器 外科	ANAクラウン プラザホテル 釧 路	H29.6.30-7.1	第111回日本臨床外 科学会北海道支部 総会	当科における腹腔鏡手術後癒着 性イレウス予防の工夫	

氏名	部署名	会場	期間	研修名	研究発表演題名	共同研究者名
16 本間 友樹	消化器外科	ANAクラウン プラザホテル 釧路	H29.7.1	第111回日本臨床外 科学会北海道支部 総会	当科における腹腔鏡手術術後癒 着性イレウス予防の工夫	横田良一、田口 宏一、細田充 主、千田圭悟
17 上田 直弘	消化器外科	北海道大学 学術交流会館	H29.9.21-22	乳癌分科会(第15回 日本乳癌学会北海道 地方会)	肺・胃・大腸に転移をきたした乳腺 metaplastic carcinomaの一例	
18 杉山 昂	消化器外科	福岡 国際センター	H29.10.13-15	第25回日本消化器 関連学会週間	自然退縮した肝細胞癌の6例の 検討	
19 千田 圭悟	消化器外科	砂川 パークホテル	H29.11.16	平成29年度空知医 師会集談会	当科での進行下部直腸がんに対 する術前化学放射線療法の検 討	杉山昂、本間友 樹、横田良一、 田口宏一
20 杉山 昂	消化器外科	メルパルク熊本	H29.11.17-18	第28回日本消化器 癌発生学会総会	ミラノ基準以内の肝細胞癌に対 する術前リンパ球単球比(LMR) の再発予測因子としての検討	
21 千田 圭悟	消化器外科	東京国際 フォーラム	H29.11.23-25	第79回日本臨床外 科学会総会	当院での局所進行直腸癌に対 する術前放射線化学療法の検 討	横田良一、本間 友樹、細田充 主、田口宏一
22 本間 友樹	消化器外科	国立京都 国際会館	H29.12.7-9	第30回日本内視鏡 外科学会総会	腹腔鏡手術術後の腸閉塞予防 対策としてのセプラフィルム貼付 法の工夫	
23 田口 宏一	消化器外科	ホテルグランドアーク 半蔵門	H29.12.13	第12回臨床研修病 院事務担当者講習 会	病院の取組み～臨床研修評価 の経験から～	
24 工藤 真未	消化器外科	京王プラザ ホテル	H30.3.8-9	第54回日本腹部救急 医学会総会	上腸間膜動脈閉鎖症が疑われ た孤立性上腸間膜動脈解離の 一例	
25 細田 充主	乳腺外科	マリンメッセ福岡	H29.7.12-15	第25回日本乳癌学会 学術総会	閉経後ER陽性乳癌患者におけ るAT剤内服中の骨密度の検討	太刀川花恵、田 口宏一
26 細田 充主	乳腺外科	北海道大学 学術交流会館	H29.9.23	乳癌分科会(第15回 日本乳癌学会北海道 地方会)	乳癌検診におけるオプションとし てのトモシンセシスについての検 討	清水紀宏、正木 芳宏、松谷健 一、中尾元基、 玉置陽生、平林 高之
27 岡田 葉平	整形外科	仙台 国際センター	H29.5.18-21	第90回日本整形外科 学会学術総会	両十字靭帯温存型人工膝関節 における前十字靭帯機能の生体 力学的解析	寺本篤史、山川 学志、高木鉄 矢、榊原醸、小 路弘晃、鈴木智 之、渡邊耕太、 藤宮峯子、藤江 裕道、山下敏彦
28 岡田 葉平	整形外科	仙台 国際センター	H29.5.18-21	第90回日本整形外科 学会学術総会	ポータブルナビゲーションシステム を用いたTKAの3D-CTによる大 腿骨矢状面術前計画と術後評 価	寺本篤史、小路 弘晃、鈴木智 之、渡邊耕太、 山下敏彦、木井 雄一郎
29 栗原 康太	整形外科	仙台 国際センター	H29.5.18-21	第90回日本整形外科 学会学術総会	メトレキサート関連リンパ腫増殖 性疾患の14例	北村公一、山下 敏彦
30 岡田 葉平	整形外科	北海道大学 学術交流会館	H29.7.8-9	第133回北海道整形 災害外科学会	両十字靭帯温存型人工膝関節 における前十字靭帯機能の生体 力学的解析	有門大介、鈴木 竜太、澁谷雅 之、菊池謙成
31 岡田 葉平	整形外科	沖縄 コンベンションセンター	H29.10.26-27	第32回日本整形外 科学会基礎額学術 集會	両十字靭帯温存型人工膝関節 における両十字靭帯の張力の生 体力学解析	

氏名	部署名	会場	期間	研修名	研究発表演題名	共同研究者名
32 岡田 葉平	整形外科	松山市総合 コミュニティーセンター	H29.11.24-25	第44回日本臨床バイオ メカニクス学会	両十字靭帯温存型人工膝関節 における両十字靭帯の張力の生 体力学解析	寺本篤史 <sup>1)</sup> 、高 木鉄矢 <sup>2)</sup> 、山川 学志 <sup>2)</sup> 、榊原 醸 <sup>1)</sup> 、小路弘晃 <sup>1)</sup> 、 渡邊耕太 <sup>3)</sup> 、藤 宮峯子 <sup>4)</sup> 、藤江 裕道 <sup>2)</sup> 、山下敏 彦 <sup>1)</sup>
33 岡田 葉平	整形外科	北海道大学 学術交流会館	H30.2.3-4	第134回北海道整形 災害外科学会	両十字靭帯温存型TKAにおい てインサート厚がACL及びPCL の張力に与える影響	札幌医科大学: 寺本篤史、榊原 醸、小路弘晃、 山下敏彦、病理 渡邊耕太、解剖 学 藤宮峯子 首都大学:高木 鉄矢、山川学 志、渡邊耕太、 藤江裕道
34 岡田 葉平	整形外科	東京 国際フォーラム	H30.2.23-24	第48回日本人工関節 学会	両十字靭帯温存型TKA後早期 に再置換を要した2例	札幌大整形学 講座 寺本篤 史、山下敏彦 札幌大理学療 法第二 渡邊 耕太
35 香山 武蔵	形成外科	都ホテル ニューアルカイク	H30.2.10-11	第23回日本形成外科 手術手技学会	当院におけるデクスメトミジンに よる鎮静を併用した自家局所麻 酔手術の経験	
36 南田 善弘	脳神経 外科	学士会館	H29.4.21	第30回日本老年脳神 経外科学会	高齢者に発症したIgG関連脳内 腫瘍	古明地孝宏、鶴 飼亮
37 南田 善弘	脳神経 外科	栃木県 総合文化センター	H29.5.19-20	第35回日本脳腫瘍病 理学会	IgG4関連疾患に伴う脳内炎症 性偽腫瘍の一例	古明地孝宏、鶴 飼亮
38 南田 善弘	脳神経 外科	大塚製薬(株) 札幌支店	H29.5.28	第83回札幌脳外科 集談会	札幌医科大学 脳神経外科 一般演題のコメンテーター	
39 南田 善弘	脳神経 外科	ホテル ブエナビスタ	H29.6.15-17	第29回日本頭蓋底外 科学会	斜台脊索腫の経鼻内視鏡手術 における解剖学的指標としての Vidian Canalの意義	鶴飼亮、古明地 孝宏、関隆史
40 南田 善弘	脳神経 外科	かでしま県民 交流センター	H29.9.8-9	第22回日本脳腫瘍の 外科学会	斜台錐体部脊索腫に対する経 鼻内視鏡手術	鶴飼亮、古明地 孝宏
41 南田 善弘	脳神経 外科	パシフィコ横浜	H29.11.9-10	第24回日本神経内 視鏡学会	経鼻頭蓋底手術における解剖学 的指標としてのVidian Canalの 重要性	
42 南田 善弘	脳神経 外科	アクトシティ浜松 コンgresセンター	H30.2.9-10	第28回日本間脳下垂 体腫瘍学会	破裂巨大脳動脈瘤とアクロメガ リーの合併:視機能障がい <sup>1)</sup> の予後 についての考察	古明地孝宏、外 山賢太郎
43 南田 善弘	脳神経 外科	京王プラザホテル	H30.2.24	第31回日本老年脳 神経外科学会	高齢者に発症したIgG4関連脳 内偽腫瘍の一例	
44 南田 善弘	脳神経 外科	朱鷺メッセ	H30.3.2-3	第41回日本脳神経C I学会総会	高齢者に発症したIgG4関連脳 内腫瘍の一例	
45 南田 善弘	脳神経 外科	福岡 国際会議場	H30.3.15-18	第47回日本脳卒中の 外科学会学術集会	破裂巨大脳動脈瘤とアクロメガ リーの合併、視機能障害の予後 についての考察	古明地孝宏、外 山賢太郎、鶴飼 亮
46 外山賢太郎	脳神経 外科	札幌医科大学 記念ホール	H30.1.20	第23回札幌脳血管 内手術手技研究会	脳動脈瘤コイル塞栓術後に生じ たPerianeurymal edemaの検 討	

氏名	部署名	会場	期間	研修名	研究発表題名	共同研究者名
47 中野 陽介	心臓血管外科	あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)	H29.6.15-16	第37回日本静脈学会 総会	卵巣静脈コイル塞栓術により、症状改善を認めた Pelvic congestion syndrome の1例	橋口仁喜、佐々木昭彦
48 橋口 仁喜	心臓血管外科	あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)	H29.6.15-16	第37回日本静脈学会 総会	卵巣静脈コイル塞栓術により、症状改善を認めた Pelvic congestion syndrome の1例	中野陽介、佐々木昭彦
49 橋口 仁喜	心臓血管外科	北海道大学 学術交流会館	H29.6.24	第117回日本循環器 学会北海道地方会	不安定狭心症による心停止後の急性動脈閉塞に対し、3回の外科手術を行い独歩退院可能であった1例	横田良一、田口宏一、細田允主、千田圭悟
50 橋口 仁喜	心臓血管外科	札幌医科大学 記念ホール	H29.7.22	第11回胸部外科アカ デミー	Pelvic congestion syndromeに 対する卵巣静脈コイル塞栓術の 有用性	
51 菅野 莉英	皮膚科	札幌医科大学 講堂	H30.2.17	第413回日本皮膚科 学会北海道地方会	プロピルチオウラシル内服による ANCA陽性下腿潰瘍の一例	鎌田麻子
52 柳瀬 雅裕	泌尿器科	アートホテル 旭川	H29.9.21-23	第53回日本移植学会 総会	座長:ドナー適応・適応評価	
53 伊與木貴也	泌尿器科	京王 プラザホテル	H29.10.7-8	日本性機能学会 第 28回学術総会	Female to male当事者に対する ホルモン療法の身体的・心理的 影響についての検討	市原浩司、小林皇、舩森直哉
54 五十嵐 学	泌尿器科	北九州 国際会議場	H29.10.7-8	第23回日本腹膜透析 学会	外科的処置を要した腹膜透析関 連感染症の検討	
55 五十嵐 学	泌尿器科	砂川 パークホテル	H29.11.16-29	平成29年度空知医 師会集談会	当院の腹膜透析の現状(Perito neal dialysis:PD)	
56 中峯奈央子	麻酔科	秋田 キャッスルホテル	H29.9.1	日本麻酔科学会北海 道・東北支部第7回 学術集会	経食道心エコーによる外傷性食 道穿孔に対し食道亜全摘を施行 した一例	雨森英彦、田口宏一、横田良一、本間友樹
57 雨森 英彦	麻酔科	札幌 コンベンションセンター	H29.9.9	第1回日本集中治療 医学会北海道支部 学術集会	座長:医師部門症例報告2	
58 高田 延寿	放射線 診断科	札幌市 教育文化会館	H29.8.5	第68回北海道血管 造影研究会	難治性乳び胸水に対し経皮的胸 管塞栓術を施行した一例	中林由香、石田明美、細田充主
59 菊池 謙成	病理 診断科	北海道大学 学術交流会館	H29.9.23	乳癌分科会(第15回 日本乳癌学会北海道 地方会)	教育セミナー診断	
60 菊池 謙成	病理 診断科	砂川 パークホテル	H29.11.16-29	平成29年度空知医 師会集談会	前立腺部尿道乳頭状腫瘍に1例	岩木宏之
61 上野 英文	薬剤部	札幌 コンベンションセンター	H29.5.20-21	第64回北海道薬学 大会及び第31回北 病薬・病院勤務薬剤 師懇談会	砂川市立病院における抗がん剤 購入額推移	小嶋希望、宮本康史、新崎祐馬、横山朝子、上野英文
62 大谷 俊和	薬剤部	札幌 コンベンションセンター	H29.5.20-21	第64回北海道薬学 大会	砂川市立病院におけるバンコマイ シン初期投与法の確立を目指し た調査	田口宏一、横山朝子、三藤陽香、上野英文
63 高野 陽平	薬剤部	札幌 コンベンションセンター	H29.6.2-4	第11回日本緩和医療 薬学会年会	オキシコドンの鎮痛耐性を疑った 1症例	
64 高野 陽平	薬剤部	パシフィコ横浜	H29.6.22-24	第22回日本緩和医療 学会	体重50kg未満の成人におけるア セトアミノフェン静注液の高用量 投与と肝障害に関する検討	
65 池川 真由	薬剤部	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	砂川市立病院における心不全カ ンファレンスについての取り組み	
66 大西真奈美	薬剤部	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	入退院支援センターにおける薬 剤師の介入に関する報告	

氏名	部署名	会場	期間	研修名	研究発表演題名	共同研究者名
67 小嶋 希望	薬剤部	幕張メッセ	H29.11.3-5	第27回日本医療薬学会年会	Clostridium difficile感染症の発生と抗菌薬適正使用の関連性についての調査	坪田晃司1、宮本康史1、竹内里哉1、上野英文1、齊藤拓也2、長島明美2
68 新崎 祐馬	薬剤部	ホテル さつぽろ芸文館	H30.1.27	第11回日本静脈経腸栄養学会北海道支部例会	砂川市立病院入院患者における健康食品の摂取状況	平井彩也香、松本友里、高橋一彦、西崎颯斗、山下彰太、土屋堅司、今泉慶介、渡邊康太、吉村恵理、竹内里哉、小嶋希望
69 竹内 里哉	薬剤部	金沢県立音楽堂他	H30.3.26-28	日本薬学会第138年会	Aspergillus fumigatusが股関節の膿瘍から検出された右感染性股関節炎の一症例	松本友里、小嶋希望、坪田浩司、伊谷純、上野英文
70 加藤 大亮	放射線科	ロイトン札幌	H29.7.22	第16回北海道病院学会	当院でのAiの取り組みの現状	松浦由佳、岸田直樹
71 橋 博己	放射線科	稚内港国際旅客ターミナル	H29.10.14-15	北海道自治体病院協議会放射線部会第6回研修会及び定期総会	最新マンモグラフィ装置の使用経験	細田充主、菊池謙成
72 大屋 重幸	放射線科	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体病院学会in千葉	当院における極小照射野ビームの線量検証	河崎一仁、橋博己、坪田浩未、庵遥、村上弘、長谷川雅一
73 岡 雅弘	放射線科	広島国際会議場	H29.10.19-21	第45回日本放射線技術学会秋季学術大会	T2FFEによる頭蓋外舌神経描出の至適撮像条件の検討	
74 田中 健登	放射線科	深川市経済センター	H29.11.11	平成29年度空知放射線技師会秋季研修会	当院での透析患者の検査について	金野雄太、小西真規也、遠山亮、白川和樹、足達勇、佐々木勇人、中鉢純、三浦良一
75 斎藤 志穂	検査科	小樽商科大学	H29.9.30-10.1	第91回北海道医学検査学会	血液培養から抗酸菌が検出された中心静脈ポート感染患者の一例	松谷健一、玉置陽生、中尾元基、正木芳宏、清水紀宏、平林高之(消化器外科)、本間友樹、横田良一
76 杉尾 莉奈	検査科	小樽商科大学	H29.9.30-10.1	第91回北海道医学検査学会	可溶性IL-2R試薬「ナノピア®IL-2R」の基礎的検討	寺本篤史、高木鉄矢他
77 松本 好実	検査科	小樽商科大学	H29.9.30-10.1	第92回北海道医学検査学会	転移性前立腺癌におけるNKX3.1の免疫染色の有用性について	
78 高木 公基	検査科	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体病院学会in千葉	当院で経験したヘアリー細胞白血病型	本間瑞生、長澤雄太、椎名真一
79 大山 千尋	リハビリテーション科	沖縄コンベンションセンター	H29.5.26-27	第18回日本認知症ケア学会大会	中等度認知症高齢者の楽しさプログラムの探索的実施と効果の検討	西田剛士、近藤謙次
80 大山 千尋	リハビリテーション科	沖縄コンベンションセンター	H29.6.10-11	第48回北海道作業療法学会	砂川市における認知症初期集中支援の事例	



氏名	部署名	会場	期間	研修名	研究発表演題名	共同研究者名
81 浅野 祐平	リハビリテーション科	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体病院学会in千葉	当院の地域包括ケア病棟におけるリハビリテーション実施患者のFIMの変化	加藤和彦、小野寺智和、伊東翔太
82 扇谷 祐輝	リハビリテーション科	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体病院学会in千葉	簡易枕を用いた頸部突出位により経口摂取を継続できた筋委縮性側索硬化症患者の一例	本間一徳、浅野孝弘、松田百恵
83 吉田 拓真	リハビリテーション科	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体病院学会in千葉	当院における心臓リハビリテーションの取り組み～意識付けと運動習慣獲得に着目して～	
84 足立 勇	臨床工学科	リンクステーションホール青森	H29.5.20-21	第27回日本臨床工学会	当院におけるハイパーサーミアを通じたがん治療への関わり	
85 伊藤 仁弥	臨床工学科	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体病院学会in千葉	人工呼吸器業務の現状と課題	三浦良一、佐々木勇人、足達勇、小西真規也、望月美里、平郡紗季、高野陽、千田綾香
86 大谷 励生	臨床工学科	札幌コンベンションセンター	H29.11.12	第92回北海道透析療法学会	AQP4抗体陰性の視神経脊髄炎症例(NMO)をPEで治療し失明を回避し得た1例	金野雄太、遠山亮、白川和樹、中鉢純、三浦良一、柳瀬雅裕
87 坂本 裕典	臨床工学科	札幌コンベンションセンター	H29.11.12	第92回北海道透析療法学会	FA-210Fecoの末梢循環の臨床評価	正木芳宏
88 大谷 励生	臨床工学科	北海道大学学術交流会館	H29.11.19	第28回北海道臨床工学会	透析でのフットケアに臨床工学士が介入して	高野陽、千田綾香、伊藤仁弥、坂本裕典、平郡紗季、坂本翠、望月美里、齊藤卓也、金野雄太、小西真規也、遠山亮、足達勇、佐々木勇人、中鉢純、三浦良一
89 越智みずき	栄養管理室	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体病院学会in千葉	砂川市認知症初期集中支援チームの取り組み～持てる力を活用し服薬管理を多職種連携で支えた1事例～	
90 福田 智子	看護部	沖縄コンベンションセンター	H29.5.26-27	第18回日本認知症ケア学会大会	緩和ケア病床を有する急性期病棟看護師のジレンマについての考察～アンケート調査から得られた現状と課題～	森佳子、田口宏一、松井佳奈江、三本サヤカ
91 森井 佳奈	看護部	パシフィコ横浜	H29.6.23-24	第22回日本緩和医療学会	乳腺外来開設に伴う外来業務と外来看護師の変化について	
92 鈴木 幸枝	看護部	北海道大学学術交流会館	H29.9.23	第15回日本乳癌学会北海道地方会	ドクターカーに同乗する看護師の教育内容について	伊波久美子
93 中西 郁恵	看護部	金沢歌劇座	H29.10.6-7	第19回日本救急看護学会学術集会	A救命救急センターに受診後に帰宅となった高齢患者の現状 病棟間応援体制における看護職員の思いと看護管理者の実践(第2報)	伊波久美子
94 山口 理恵	看護部	金沢歌劇座	H29.10.6-7	第19回日本救急看護学会学術集会	病棟間応援体制における看護職員の思いと看護管理者の実践(第1報)	柏原季菜、橘博巳、千田圭悟、本間友樹、横田良一、田口宏一

氏名	部署名	会場	期間	研修名	研究発表演題名	共同研究者名
95 伊波久美子	看護部	札幌 コンベンションセンター	H29.10.12-13	第48回日本看護学会 看護管理	PDCAサイクルを基軸とした教区 担当主任学習会の評価	細田充主
96 中村 香織	看護部	札幌 コンベンションセンター	H29.10.12-13	第48回日本看護学会 看護管理	A市における医療介護福祉の地 域連携評価と今後の課題	
97 細海加代子	看護部	札幌 コンベンションセンター	H29.10.12-13	第48回日本看護学会 看護管理	「報告しやすい組織文化」醸成 への取り組み～グッドジョブ報告 の導入～	
98 森 佳子	看護部	札幌 コンベンションセンター	H29.10.12-13	第48回日本看護学会 看護管理	救命救急センターに入院する患 者の栄養評価～入院時の身体 的・社会的情報の分析から見え たもの～	
99 山崎 君江	看護部	札幌 コンベンションセンター	H29.10.12-13	第48回日本看護学会 看護管理	手術室における災害避難訓練の 実施・評価と今後の課題～フロー シートとアクションカードを併用して～	
100 阿部 貴臣	看護部	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	がん患者に携わる病棟看護師の 困難感	土田智也
101 阿部 貴臣	看護部	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	救命救急センターに入院する患 者の栄養評価～入院時の身体 的・社会的情報の分析から見え たもの～	土田智也
102 石井 美帆	看護部	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	手術室における災害避難訓練の 実施・評価と今後の課題～フロー シートとアクションカードを併用して～	横山直樹、福塚 智美、佐藤美咲
103 工藤 勇人	看護部	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	がん患者に携わる病棟看護師の 困難感	中田明日里、田 中優姫、大嶋守
104 田村 慎弥	看護部	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	救命救急センター受診後に帰宅 となった高齢患者の日常生活の 現状～看護師の気がかりと患者 の不安の分析から～	山口舞、山口理 恵、伊波久美子
105 細海加代子	看護部	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	新人看護師の心理状況の把握と フィードバック効果	
106 伊波久美子	看護部	幕張メッセ	H30.2.21-23	第45回日本集中治療 医学会学術集会	集中治療室に入室した90歳以上 の超高齢者のACPとDNR	
107 佐藤 正幸	医事課	札幌 コンベンションセンター	H29.9.21-22	第43回日本診療情報 管理学会学術大会	DWHを活用した「重症度、医療・ 看護必要度」の評価制度向上へ の取り組み	
108 平賀 祐介	医事課	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	多職種で取り組んだZ-projectの 成果～2年目の取り組みについて 80億円を職員の手で～入院請求 業務委託から職員へ～	
109 明円 彬	医事課	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	救急科における医師事務作業補 助者の業務	
110 佐々木智子	医師診療 支援室	ウインクあいち	H29.11.25	日本医師事務作業補 助研究会第7回全国 大会	当院の「緩和食」の取り組み	
111 及川 佑介	地域医療 連携室	パシフィコ横浜	H29.6.23-24	第22回日本緩和医療 学会	治療が望めない段階での抗がん 剤の治療について・市民と看護師 への意識調査	田口宏一、大坂 衣里、高野陽 平、森井佳奈、 森佳子
112 松井佳奈江	地域医療 連携室	パシフィコ横浜	H29.6.23-24	第22回日本緩和医療 学会	抗がん剤治療中患者への Dignity therapyが心理的援助 につながった一事例	田口宏一、森佳 子、及川佑介、 森井佳奈
113 森田 康晴	研修 管理室	幕張メッセ	H29.10.19-20	第56回全国自治体 病院学会in千葉	臨床研修の質向上を図るための 第三者評価受審	

氏名	部署名	会場	期間	研修名	研究発表演題名	共同研究者名
114 森田 康晴	研修 管理室	ホテルグランドアーク 半蔵門	H29.12.13	第12回臨床研修病 院事務担当者講習 会	臨床研修病院としての心得と事 務担当者の重要性	



砂川市立病院医学雑誌投稿規定  
(Journal of Sunagawa City Medical Center)

I. 医学関係論文

1. 本誌に掲載する論文は、砂川市立病院職員及び本誌に掲載を希望する関係者の投稿するものとする。
2. 投稿論文は原著、症例報告、総説、診療研究、その他の研究活動からなり、他誌に未掲載のものとする。
3. 掲載論文の採否及び掲載順位は編集委員会で決定する。
4. 論文形式

- a) 原稿の記述の順序は以下の通りとし、それぞれの番号のところで改頁する。

①和文表紙：和文の表題、所属、著者名の順に記載する。	②和文要旨：400字以内の要旨を記載する。
③5語以内のKey Words (英語) を記載する。	④英文でタイトル、所属、著者名を記載する。
⑤本文 はじめに 材料と方法 結果 考案の順に記載	⑥文献
⑦図、表及び図・表説明	⑧投稿総字数を表紙下部に手書きで明記

5. 論文の書き方

- a) 原稿は和文の場合、原著、総説 8,000 字以内とする。又DVD/USBでの提出の際には以下の点 に注意して下さい。
  - ①パソコン (Windows) の場合は、ワープロソフト (MS word) 等を使用することを希望します。それ以外のアプリケーションを使用するときはT E X T形式で本文を保存すること。
  - ②手書き原稿は受け付けません。
  - ③文字と改行だけで単純に棒打ちして下さい。
- b) 英文では必ずパソコンを使用し、ワープロソフト (MS word) を使用するか、それ以外のアプリケーションを使用するときはT E X T形式で本文を保存すること。1行おき28行以内で枚数は和文と同様とする。人名、地名などの固有名詞はなるべく源字を用い、最初の1字のみ大文字とする。また普通名詞は全部小文字とする。必ずnative speakerの校正を受けてください。
- c) 数字は算用数字を用い、度量衡は国際単位系 (S I) で記載する。
- d) 論文にて繰り返される語は略語を用いても差し支えないが、初出の時は完全な用語を用いることを明記する。
- e) 図 (写真を含む)、表は別紙とし、図1、図2、あるいは表1、表2のように番号を付け、挿入箇所を明記する。写真は原則として白黒とし、手札サイズで印画紙に焼き付けたものとする。又 必ずデジタルデータで提出してください。カラー図・表を希望する方はカラーにて印刷し (最低1440dpiの出力を有するプリンターを使用)、同時にデジタルデータ化してください。同時にカラー図掲載の希望を委員会までお知らせください。画像の目安としては 原寸で約300dpiの解像度相当で取り込み、JPG形式で保存して下さい。
- f) 論文本体、図 (写真を含む) 及び表は1セットプリントし、提出して下さい。
- g) 引用文献

- ①文献は本文中において引用のつど番号 ( 1)、2)、3) のように算用数字で) をうち、末尾に引用順に一括する。
- ②雑誌の場合～著者名. 論文名. 雑誌名 巻 (号) : 頁, 発行年 (西暦) .

【著者1名】

- 1) 谷藤順士：皮膚疾患の臨床. 臨床皮膚 12(4) : 745-752, 1990.
- 2) Hawkey CJ. : COX-2 inhibitors. Lancet. 353(9149) : 307-314,1999.

【著者2名以上】

- 1) 小林広幸 他：慢性関節リウマチ患者にみられた腸の潰瘍性病変. 胃と腸 26(9) : 1247-1256, 1991.
- 2) Stillman MJ. et al : Desmoplastic malignant melanoma. Int J Pathol. 24(5):28-35, 1989.

外国誌は、Index Medicusの略誌名

邦文誌は、「醫學中央雑誌収載誌目録」(医学中央雑誌刊行会) による略名を使用する。

- ③単行本の場合～著者名. 書名. 版. 頁, 発行所, 発行地, 発行年.

【単行本】

- 1) 小野江為則. 電顕腫瘍病理学, 第2版. 153-173, 南山堂, 東京, 1986.
- 2) Murphy GP :Advances in cancer research, 2nd ed. John Wiley and Sons, New York,1990.

【単行本の1章】

- 1) 川端 真 血管縫合の実際, 浜野哲男他(編) : 脈管外科. 医学書院, 東京, 1990.
- 2) Heyes RB. et al: Histologic markers in primary and metastatic tumors of the liver. : Andreoli M, Monaco Feds. The tumor of the liver,140-150,Elsevier Science Publishers, New York,1989.

- ④オンライン資料の場合～著者名. 題名. サイト名 (URL) . 最終アクセス日.

【例】岸田典子, 高下恵美, 藤崎誠一郎, 他. 国内のインフルエンザ流行株の抗原性, 遺伝子系統樹解析および薬剤耐性株の検出状況-2011/12シーズン途中経過. (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/flu-iasrs/1716-pr3862-1.html>). Accessed 2012 July 20.

II. 業績について

学会活動録 (地方会、総会、その他研修会=院外での集会での発表) は筆頭演者. 演題. 学術集会名. 日時. 場所.

掲載論文は、著者全員. 論文名. 掲載雑誌名. 巻 : 頁—頁, 発表年 の順に記載し、編集委員会にDVD/CD/USB/院内メール等での提出をすること。

III. 投稿、編集などに関する問い合わせは下記とする。

〒073-0196  
北海道砂川市西4条北3丁目1番1号  
砂川市立病院 医学雑誌編集委員会 (事務局 研修管理室)  
TEL (0125) 54-2131 (2041)

## 編集後記

2019年砂川市立病院医学雑誌第32巻を編集し、この度発刊することができました。

2018年度は、病院事業管理者に平林高之先生が就任、院長に私が就任するなど新たな体制となりました。

今後につきましても全職員が一丸となり、さらに当院がレベルアップすることを目指し、院内外で研究発表、論文発表等を行って参ります。

砂川市立病院 医学雑誌編集委員会

委員長 田口 宏一

## 編集委員会

委員長	田口 宏一				
副委員長	岩木 宏之				
委員	細海 加代子	中村 香織	伊波 久美子		
	竹内 里哉	村上 翼	天間 友理香		
	白川 和樹	伊東 翔太	下坂 香		
	佐藤 大作	梅木 一朗	明山 優夏		
	小柳 貴敬	小熊 雄一	大辻 誠司		
	戸田 悦子				
事務局	森田 康晴	田中 静江			

砂川市立病院医学雑誌 第32巻 第1号

2019年1月28日 印刷・発行

発行人 田口 宏一

発行所 砂川市立病院  
北海道砂川市西4条北3丁目1番1号

印刷所 (有)アド・ワーズ  
北海道砂川市東1条北14丁目1番1号